

「9・8」——^{げんすいばくきんしせんげん}原水爆禁止宣言の日

どうにゆうぶ
導入部

9月8日は、^{とだじょうせいだいにだいかいちょう}戸田城聖第二代会長が「^{げんすいばくきんしせんげん}原水爆禁止宣言」を^{おこ}行なった日です。^{せかいひろ}世界へ広がる^{そうか}創価の^{へいわうんどう}平和運動の^{げんりゅう}源流となった「^{げんすいばくきんしせんげん}原水爆禁止宣言」の^{いぎ}意義をともに^{まな}学んでいきましょう。

1 枚目 / ^{いくん だいいち げんすいばくきんしせんげん}“遺訓の第一”原水爆禁止宣言 (7枚目の絵の裏に貼る)

1957 (^{しょうわ}昭和32)年9月8日。^{あらし}嵐の^{すぎ}過ぎ去った^{そら}空は、^{あお}青く^は晴れわたっていました。この日、^{よこはまし}横浜市の^{みつざわ}三ツ沢^{きょうぎじょう}競技場で開催された^{そうかがつかい}創価学会の^{たいいくたいかい}体育大会「^{わこうど}若人の^{さいてん}祭典」には、^{すうまん}数万の^{せいねんぶ}青年部が^{つど}集いました。

^{せきじょう}席上、^{とだせんせい}戸田先生は、^{いけだせいねんしつちょう}池田青年室長(当時)ら^{こうけい}後継の^{せいねんたち}青年達に「^{いくん}遺訓と^{だいいち}すべき第一のもの」として、「^{げんすいばく}原水爆^{きんしせんげん}禁止宣言」を^{はっぴょう}発表しました。

2 枚目 / ^{へいわしそう かくだい けつい}平和思想の拡大を決意 (1枚目の絵の裏に貼る)

^{だいにじせきたいせん}第二次世界大戦の^{しゅうけつちよくぜん}終結直前の1945 (^{しょうわ}昭和20)年——^{ひろしま}広島、^{ながさき}長崎に^{あいつ}相次いで^{げんしぼくだん}原子爆弾が^{とうか}投下され、^{いっしゆん}一瞬にして^{おお}多くの^{せいめい}生命が^{うば}奪われました。

^{とだせんせい}戸田先生は、この^{じじつ}事実に^{ふか}深く^{こころ}心を^{いた}痛めました。そして、^{にど}二度とこの^{ひげき}ような^お悲劇を^{おこさ}起こさない^{ためにも}ためにも、^{せいめい}生命^{そんげん}尊厳を^{きちょう}基調とした^{かつこ}確固たる^{へいわしそう}平和思想を^{ひろ}広げなければならぬと、^{ふか}深く^{けつい}決意したのでした。

3 枚目 / ^{せんご そうかがつかい ほつてん}戦後の創価学会の発展 (2枚目の絵の裏に貼る)

^{しゅうせんご}終戦後、^{ひとびと}人々は、^{はいせん}敗戦による^{せいかつく}生活苦と^{かちかん}価値観の^{ほうかい}崩壊で、^{ぜつぼう}絶望と^{ふあん}不安に^{さいな}苛まれていました。そのような^{じだい}時代にあつて、^{そうかがつかい}創価学会の^{さいけん}再建に^{ひとり}一人立ち上がった^{とだせんせい}戸田先生のもと、^{ほつてん}学会は^{ほつてん}発展していきました。

^{にんげん}人間の^{むげん}無限の^{かのうせい}可能性を^と説き、^{へいわ}平和を^{うた}訴え^ぬ抜く^い創価学会は、^{ゆうき}生きる^{みらい}勇気と^{きぼう}未来への^{あた}希望を^{そんざい}与える^{存在}存在として、^{きょうかん}人々に^わ共感の^{ひろ}輪を広げていったのでした。

4 枚目／軍拡競争と核抑止論 (3枚目の絵の裏に貼る)

一方、第二次世界大戦の終結以降、世界では東西の陣営による冷戦が始まり、軍備の拡張が行われ、核兵器の開発と実験が繰り返されていました。

こうした状況を正当化する理論として「核抑止論」が台頭してきました。この考え方は、互いに核兵器を持つことで、恐怖感を与え合い、相手をけん制・支配しようとするものです。

しかし、この理論が生み出す結果は、際限のない軍備拡張競争であり、世界は再び、核戦争の恐怖にさらされようとしていたのです。

5 枚目／「原水爆禁止宣言」 (4枚目の絵の裏に貼る)

このような世界情勢のなか、戸田先生は「原水爆禁止宣言」として、次のような遺訓を弟子たちに託しました。

「われわれ世界の民衆は、生存の権利をもっております。その権利をおびやかすものは、これ魔物であり、サタンであり、怪物であります」「たとえ、ある国が原子爆弾を用いて世界を征服しようとも、その民族、それを使用したものは悪魔であり、魔物であるという思想を全世界に広めることこそ、全日本青年男女の使命であると信ずるものであります」「私の弟子であるならば、私の今日の声明を継いで、全世界にこの意味を浸透させてもらいたい」

6 枚目／原水爆禁止宣言の意義 (5枚目の絵の裏に貼る)

「原水爆禁止宣言」は、それまで核兵器の存在を「国益」優先の立場から「必要悪」としてきた思想に対して、「人類益」を最優先させる立場から「絶対悪」と断じ、「人間の生存の権利」を訴えた宣言です。戸田先生は、核兵器を人間の生命に潜む「魔」の産物ととらえ、その使用を断じて許さないと糾弾したのです。

以来、戸田先生が行ったこの「生命の魔性」との闘争宣言は、SGI (創価学会インタナショナル) の平和運動の原点となりました。

7枚目／師の平和思想を、弟子が受け継ぐ日（6枚目の絵の裏に貼る）

池田先生は師の宣言を胸に、「生命の魔性」に打ち勝つ「善の力」を引き出す行動を開始します。1968（昭和43）年の9月8日に、日中国交正常化を提唱し、1974（昭和49）年の9月8日にはソ連（当時）を初訪問するなど、世界の要人との信念の対話を続け、世界に平和の道を切り拓いてきました。

2009年9月8日には「核兵器廃絶へ 民衆の大連帯を」との提言を発表。また、2011年1月26日に発表した「SGIの日」記念提言では、国連安全保障理事会での核問題に関するサミットの定例化や、2015年の核拡散防止条約の再検討会議を広島と長崎で開催することを提案するとともに、民衆の圧倒的な意思をもって「核兵器禁止条約」を早期に制定させることを世界に提案しました。

戸田先生と池田先生によって刻まれた平和原点の日「9・8」——この日は、師の平和思想を、弟子が受け継ぎ、平和へのたゆまぬ行動を貫く誓いの日なのです。

決意など